場所　神奈川県横浜市

面積　0.2793ha



活動目的

本地域における活動全般は、幼児期の育ちを豊かにし、昨今では自ら進んで臨まないと接することのできない自然環境を身近な環境と捉え、人以外の生命の存在に気づき、そこでの体験が人生を豊かにし、持続可能な社会活動の一環として自然を愛し、動植物を慈しむことを目的としている。

サイト概要

本サイトは東京、横浜の都市から約30分、周辺は住宅や事務所等に囲まれたごくわずかな緑地である。生物相の多様性を求め、池ビオトープを創出したこともあり、多くの野鳥や昆虫(主にトンボ類・蝶類）が観察される場所となった。日常は幼稚園児の遊び場所として自然環境に親しみ、四季の変移を感じられる、昨今の教育環境下ではとても重要な場所となっている。また多くの生きものと接し、生態系の不思議や自然の成り立ちを親子で感じられる場所として運用されている。年間を通じてネイチャーゲームを実施。どんぐりの苗木作り事業は9年目を迎える。また当該区域の開放により、地域住民にも自然環境に親しんでもらい、この地の大切さを伝えると共に、生物相の保全に役立っている。

土地利用の変遷

本サイトは個人が所有する山林及び宅地であったが、隣地であった長津田学園が幼稚園児の環境教育の場として適した場所と考え2名の個人から取得したものである。それまでは特に決まった整備もされず、放棄林と古屋のある緑地となっていたが取得してからは林内に歩道を作り、園児たちが立ち入れる場所とした。また古屋の跡地に自然観察拠点を増設し、ビジターセンター風の建物を新築し、林内で見つけた様々な生物の痕跡や標本を展示している。

サイト周辺の環境

本サイトの周辺はほぼ住宅地となっているが、緑地がスポット的に点在し、緑の回廊としての役割が認められる為、大型猛禽類も利用する緑地となっている。国道246号線からすぐの場所であるが、国道の南側には田んぼが広がり、谷戸の一部が残っている。

アピールポイント

JR横浜線及び東急田園都市線長津田駅から徒歩5分程度の場所に位置し、身近な生きものの観察場所としてはアクセスが大変便利である。何よりも幼児期の子どもたちが日常的に自然環境に触れられる場所として利用されているところが特質として挙げられる。また自然環境下で遊んだ、そしてそこで多くを体験した証として、どんぐりの苗木作りに取り組み、将来までこの緑地を忘れずにいられるように活動している事も重要である。そしてこの場所には周辺ではどんどん減少している緑地を求めて多様で貴重な動物種が集まっていることが証明されている。

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

本エリアは住宅街に囲まれたほんのわずかな緑地帯であるが、生態系ピラミッドをしっかりと形成する場となっている。池ビオトープの創出により、その豊かさは多様性を増し、園児を始め、近隣住民が動植物に触れ合う貴重な場となっている。在園児は入園した年に実ったどんぐりを拾い、「自分の木」として鉢植えし、苗木を育てている。また卒園後にも続けられるように小冊子を作成し持たせている。

【主な植生】

・二次林内樹種：常緑樹のシラカシ/アラカシ/クスノキなどの群集。落葉広葉樹のカエデ/ケヤキ/サクラ/カキなどの群集、他に原生樹としてキリ/ウメ/サンショウ/ツバキ/スギ、サワラなど。他にクマザザ、モウソウチク、マダケなど。
・水辺環境：沈水、抽水、浮葉植物、畦部分はミズヒキ、カキツバタなど。
・草地エリア：ススキ/チカラシバを中心としたイネ科植物とオオバコなどのグランドプランツ類
・土手エリア：ツリガネニンジン/ヒトリシズカ/フタリシズカ/ゼンマイの野草種も自生。

【確認された主な動植物など】

申請サイトで実施した野鳥調査では、17科24種の野鳥が確認されている。
数の多い種としては、メジロ、ヒヨドリ、シジュウカラが多く、秋から冬にかけて増え、冬はコゲラやエナガがカラ類と混群になっている。裏山の雑木林(以下どんぐり山)とビオトープ域(以下ぽかぽか広場)は野鳥の採餌場として利用されており、キジバト、コゲラ、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、エナガ、メジロ、スズメの8種の採餌が確認された。
繁殖の行動はキジバト、ハシブトガラス、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロの9種で、囀り、巣材運び、幼鳥が確認された。
希少種は、ツミ(神奈川県レッドデータ繁殖期絶滅危惧Ⅱ類、非繁殖期希少種)の休息、ハイタカ(環境省レッドデータ準絶滅危惧種、神奈川県レッドデータ非繁殖期減少種)の上空での旋回が確認された。これらは生態系の頂点の生物で、都市近郊のわずかに残された緑地で生息、繁殖できている。
ビオトープは周辺で貴重な水場となっており、カワセミやゴイサギが確認されている。
また、申請サイトで毎月開催している観察会による記録では、植物 51種、動物 178種（哺乳類１種、鳥類25種、爬虫類5種、両生類2種、昆虫類124種、その他無脊椎21種）が確認されている。



写真の説明：どんぐりの鉢植え作り/自分の鉢に水やり



写真の説明：毎月開催の「生きもの観察会」の様子

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

申請区域周辺は都心からも近く、東急田園都市線、JR横浜線長津田駅、国道246号線に隣接した都市部である。そのなかに点在する二次林の緑地帯の一つであり、小さな面積の中でも野鳥調査では合計24種、繁殖記録が9種、採餌記録が8種確認されている。また、観察会による記録では、植物51種、動物 178種が確認されている。

【確認された希少種】

申請区域での野鳥調査では、前ページの野鳥種が生息し、採餌、繁殖できている。それらを捕食する猛禽類である、以下が確認できている。

・ツミ(学名 *Accipiter gularis*)(神奈川県レッドデータリスト繁殖期絶滅危惧Ⅱ類、非繁殖期希少種)非繁殖期の2月、繁殖期の6月と8月に確認された。

また、観察会による記録では、以下の絶滅危惧種が確認されている。

・ヒバカリ（学名 *Amphiesma vibakari*）（神奈川県レッドデータ準絶滅危惧）池周辺、林縁にて毎年確認されている。
・ニホンアカガエル（学名 Rana japonica）（神奈川県レッドデータ絶滅危惧Ⅱ類）毎年確認されているが、2023年は全ての卵がタヌキによって捕食された。
・ベニイトトンボ（学名 *Ceriagrion nipponicum*）（環境省レッドデータリスト準絶滅危惧種NT）（神奈川県レッドデータ絶滅危惧ⅠA類）池周辺にて毎年確認されている。
・オツネントンボ（学名 *Sympecma paedisca*）（神奈川県レッドデータ絶滅危惧Ⅱ類）2023年11月に林縁にて初めて確認された。
・ミドリカミキリ（学名 *Chloridolum viride*）（神奈川県レッドデータ準絶滅危惧）2023年７月に初めて確認された。



写真の説明：ツミ　どんぐり山と園庭を飛翔



写真の説明：ツミ　どんぐり山の木で休む

生物多様性の価値

価値（8）越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、動物の生活史にとって重要な場

【場の概況】

申請区域は大規模な野鳥の越冬、飛来地ではないが、渋谷から24kmと近く、東急田園都市線、JR横浜線長津田駅、国道246号線に隣接した都市部である。周辺の開発が進む中で、そのなかに点在する二次林の緑地帯の一つであり、小さな面積の中でも野鳥調査では合計24種が確認されている。周囲の緑地帯との野鳥の行き来があり、ネイチャーポジティブの起点にできる価値がある。

【対象となる動物種とその動物種の生活史の内容】

［鳥類］申請サイトでは、17科24種の野鳥が確認されている。

①越冬　ハイタカ(冬鳥、冬季確認)、ウグイス(留鳥だが冬季調査時複数回確認)、エナガ(留鳥だが冬季調査時複数回確認)、シロハラ(冬鳥、冬季確認)

②休息　キジバト(樹上)、ゴイサギ(樹上)、ツミ(樹上)、ヒヨドリ(渡り時期、どんぐり山頂上部樹上)

③繁殖　繁殖に関連する行動は次の通り。キジバト(囀り)、ハシブトガラス(幼鳥)、シジュウカラ(幼鳥)、ツバメ(幼鳥)、ヒヨドリ(幼鳥)、ウグイス(囀り)、エナガ(巣材運び)、メジロ(囀り)

④採餌　どんぐり山の雑木林とぽかぽか広場は野鳥の採餌場として利用されており、キジバト、コゲラ、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、エナガ、メジロ、スズメの8種の採餌が確認された。

⑤移動(渡り)　ツミ(南の緑地帯に移動旋回)、ハイタカ(西から飛来しどんぐり山上空旋回、のち東へ)、オナガ、シジュウカラ、メジロ(周辺部から移動して申請地区に入り、出ていく)、ヒヨドリ(渡りの時期にどんぐり山に立ち寄り後通過)

希少種も普通種も、周辺に残された緑地との移動をしながら生息できている事がわかる。都市に残された貴重な自然環境であり、ここを起点に他の緑地帯への発展が可能。特にどんぐり山の西側斜面は神社の森、道を挟んで寺の森などがある。

［トンボ類・カエル類］

①繁殖　池ビオトープでは、ベニイトトンボ等のヤゴが確認されているほか、ニホンアカガエル、アズマヒキガエルの産卵が確認されており、これらの種にとって重要な繁殖場所となっている。



写真の説明：巣材運びをしているエナガ



写真の説明：木の新芽を啄むヒヨドリ

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容

＜活動目的＞
本地域における活動全般は、幼児期の育ちを豊かにし、昨今では自ら進んで臨まないと接することのできない自然環境を身近な環境と捉え、人以外の生命の存在に気づき、そこでの体験が人生を豊かにし、持続可能な社会活動の一環として自然を愛し、動植物を慈しむこと､保全することを目的としている。

＜活動内容＞
申請区域を①二次林であるどんぐり山エリア、②ビオトープエリアであるぽかぽか広場に分けて上述の価値(4)(6)(8)の保全に貢献するよう以下の保全、利用活動を行う。いずれも今ある自然を残し大きな改変はせず、危険の無い状態を保ち利用する。
①どんぐり山エリア:保全管理については、危険の無いよう見回りは日々行う(価値(4))。年に2回程度専門業者と通路整備(価値(4))、笹の間引き(価値(6)(8)、土留めの強度点検と整備(価値(4))を行う。また、利用としては毎日園児の遊び、体育、秋のどんぐり拾いと苗木栽培を行う(価値(4))。一般開放としては市民に毎月観察会を開催(価値(4))、秋に落ち葉拾いと焼き芋大会(価値(4))を開催する。
②ぽかぽか広場エリア:保全管理については専門業者による年に1度の水生植物の間引き(価値(6)(8))と周辺の草刈、刈り草のエコスタック化(価値(6)(8))を行う。また、利用としては夏季の虫取りと観察(逃がす)(価値(4))、春から夏の園児と職員の昼食の場、一般開放として月に一度の観察会を(価値(4))継続する。

＜実施体制、計画の点検・見直し＞
水辺環境施工業者、及び造園業者により保全維持管理作業を行う。その都度管理方法を指示し、問題箇所を指摘してもらい改善をする。またモニタリング調査結果から有識者樋口氏（太平電機株式会社ECOひいきプロジェクト）の助言をもらう。

モニタリング計画の内容

【モニタリング対象】
生態系の頂点である鳥類を主として、爬虫類、昆虫も確認する

【モニタリング場所】
①二次林であるどんぐり山エリア
②ビオトープエリアであるぽかぽか広場

【モニタリング手法】
①どんぐり山エリアはラインセンサス調査
②ぽかぽか広場は定点調査

【モニタリングの実施時期及び頻度】
①基本的には2年に1度の頻度で実施
②年に6回/隔月で実施

【モニタリング実施体制】
太平電機株式会社ECOひいきプロジェクトの社員が中心となって実施する。

※連携団体による上記モニタリングに加え、ながつた幼稚園が開催する生き物観察会における確認種についても、引き続き記録をとっていく。